

京都・平安京右京八条二坊跡

1 所在地 京都市下京区西七条石井町六一

2 調査期間 一九八三年(昭58)六月～八月

3 発掘機関 勸京都市埋蔵文化財研究所

4 調査担当者 本 弥八郎・菅田 薫

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の時代 古墳時代～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

当調査地は右京八条二坊二町西三行北五・六門に推定されており、平安京西市の南に位置する。検出した主な遺構は、室町時代の土塋



(京都西南部)

墓、平安時代の掘立柱建物などで、これらの遺構は調査区の東側で検出している。調査区の西側約三分の二は湿地状の堆積を呈しており、出土遺物の大半はこの湿地状の堆積土層中より出土している。上層からは中世以降の土師器・陶器・磁器・

木製品などが、下層からは古墳時代初頭の土師器がわずかに出土している。

木簡は、湿地状の堆積土層中の第四層～第六層に集中して出土しており、他に、土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・輸入磁器・木製品・土馬および一〇種二一点の皇朝銭が出土している。

8 木簡の积文・内容

- | | | |
|------|--------------|----------------|
| (1) | 「>新鴨田長大豆五斗」 | 146×19×5 033 |
| (2) | 「>領小麦五斗」 | 145×18×5 032 |
| (3) | □麦 | (101)×12×4 081 |
| (4) | □□米五斗 | (61)×14×3 081 |
| (5) | 「>春米山□□五斗」 | 147×26×5 033 |
| (6) | 「>□□小麦五斗」 | 124×25×3 033 |
| (7) | ×大□□□× | (46)×18×3 081 |
| (8) | 「>大豆□□」 | 140×15×5 033 |
| (9) | 「>新井海野□大豆五斗」 | (139)×18×5 039 |
| (10) | ×五斗 廣」 | (121)×17×3 019 |

(11)	└十六年小麦五 ^[斗カ]	(121) × 17 × 4	039
(12)	× [□] 廣万呂	(127) × 27 × 4	019
(13)	└納麦五斗	(125) × 20 × 2	039
(14)	・「小麦五斗『家者』」 ・「十六年九月廿日」	127 × 16 × 4	051
(15)	・└余 [□] [□] × ・└小麦 [□] × ^[五カ]	(92) × 22 × 4	039
(16)	× [□] 坂上人嶋家	(90) × 23 × 4	019
(17)	└ [□] 豆五斗	(117) × 20 × 4	039
(18)	└阿波 [□] 小 [□]	(153) × 18 × 4	033
(19)	└大 [□]	(110) × 23 × 3	039
(20)	・ [□] 長門國。 ^(穿孔) ・當別當。」	(55) × 13 × 1	019
(21)	[□] 麦	(113) × 10 × 4	081

(22)	└西 [□]	(32) × 21 × 3	039
(23)	・└連 [□]	(32) × 20 × 6	039
(24)	× [□] 一斗 [□]	091	
(25)	[□]	189 × 28 × 2	051

これらの他、判読不能の木簡七点と削屑が多量に出土しており、判読できる文字では、「乙九六」「識識識識」などがあり、習書と思われるものが多い。また(15)・(16)の木簡は同材・同筆のものであり、同一個体と思われる。

(11)・(14)の木簡には「十六年」と年紀が記されている。木簡と同一層での出土遺物から、ほぼ延暦年間に比定できるものであり、(20)の木簡を除きすべて同時期に属するものと推定される。(20)の木簡は判読不能であるが、出土層位と他の出土遺物から中世以降のものであろう。

(菅田 薫)